

体育科学習指導案

平成28年10月19日(水) 第5校時 体育館
5年1組 指導者 伊田悠一
男子16名、女子17名、計33名

授業改善の視点

振り返りの場面において、開脚後転で見付けたコツを生かして後転グループの技の練習を行えば、後転グループの技の系統性や発展性についての意識をもち、次につながる技の見通しをもつことができるであろう。

1 単元名 マット運動

2 校内研修との関わり及び本教材のテーマ

本校の校内研修のテーマは、『アクティブ・ラーニングを取り入れた授業改善と学習活動の工夫～「原市小学校授業づくり8つのポイント」の活用を通して～』である。これは、各教科において、学習事項を明確にし、既習事項の活用場面や生活経験のふり返りを位置づけたり、自分の気付きや考えを表現するための場の工夫やそのための教材教具の工夫をしたりすることにより、自らの学びを深めたり広げたりすることのできる児童を育成することをねらいとしたものである。

そこで、体育科でも、サブテーマである「原市小学校授業づくり8つのポイント」(別紙)を活用し、児童が課題を意識して授業に臨み、習得した知識や技能を活用して、思考を深めながら課題解決をしていけるよう授業改善に取り組んでいる。

体育科では、これまでも自己の課題の解決に向け、積極的・自主的・主体的に学習することや、仲間と対話し協力して課題を解決する学習等を重視してきた。本教材では、これらを引き続き重視するとともに、児童が自らの学習活動を振り返りつつ、仲間と共に課題を解決し、次の学びにつなげる主体的・協働的な学習の充実を図ることを指導の中心としたい。

そのために、小学校学習指導要領解説体育編の高学年の内容に例示されている開脚前転と開脚後転、側方倒立回転を中心に、それらの技の技術を指導するだけにとどまらず、『それらの技で指導する』ことを意識したい。そして、児童同士が関わり合いながら、課題の解決に向けて自ら取り組み、よりよく解決していこうという学びの過程、さらに、児童がそれぞれの技の系統性や発展性(例えば、開脚後転のコツが既習の後転にも共通することや、発展技の伸膝後転につながること)を意識しながら学習に取り組む姿の実現を目指したいと考える。

そのための手立てとして、以下の3点に指導の重点を置く。

①「めあて」の設定

児童が、学習していく技のコツが、一つの技のみにとどまらず、他の技にも共通する事やつながることを意識できるようにめあてを設定する。

単元を貫くめあて・・・『勢いよく技を行うコツは何だろう』

追求する過程(本時)のめあて・・・『勢いよく回転するための開脚後転のコツは何だろう』

深める過程(次時)のめあて・・・『開脚後転のコツを生かして、後転グループの技を上達させよう』

②「追求・検討」の場面でのICTの活用

自己の動きを確認したり、課題を見付け出したりする活動を効果的に行うことができるよう、パソコンで自動的に「遅れ再生」ができるソフトや、簡単に録画・再生・スロー再生等ができるソフトを使用する。

③「まとめ」、「振り返り及び次の学びへのつながり」の場面の設定

児童が学びを自覚し、次の学びへの見通しをもつことができるように、「めあて」の答えを整理する「まとめ」の場面を明確にするとともに、振り返り及び次の学びへのつながりとなる場面を設定する。

3 考察

(1) 本单元にかかわる児童の実態（男子16名、女子17名、計33名）

児童はこれまでに、第4学年の「マット運動」の学習で、前転や後転、壁倒立、発展技として大きな前転や開脚前転、開脚後転などに取り組み、マット運動に親しんできた。また、第5学年の「鉄棒運動」の学習で、スモールステップ型の学習カードを用い、技の習得に向けた段階的な練習に取り組んできた。さらに、練習する場や練習方法を選択したり、児童同士で補助し合ったりもしてきた。

これらの学習において、技の習得に向けて試行錯誤することや、児童同士で関わり合いながら学習することに興味・関心をもち、意欲的に取り組んできた。

運動についての思考・判断として、学習カード等に示された技のコツや練習方法を基に、児童同士でアドバイスし合ったり、練習の場や段階を選んだりすることができるようになってきている。一方で、自己の課題を明確に意識したり、技の系統性や発展性を理解したりして学習に取り組むことができている児童は多くないと思われる。また、技の動き方や技のコツ、練習の仕方などを明確に答えられた児童も多くなかった。

運動の技能として、多くの児童が前転や後転を身に付けているが、スムーズに回転することができない児童もいる。また、第4学年までに、発展技として開脚前転や開脚後転にも取り組んできているが、回転加速を得るために、腰の位置を高く保ちながらやや遠くに手を着き、腰を大きく開いて足を前方へ投げ出したり（前転グループ）、足から離れた位置に腰を移動させながら上体を勢いよく後ろに倒し、それに合わせて一気に脚を振り上げたり（後転グループ）する動きが見られる児童はいない。

以上のことから、思考・判断や技能面については課題も多く見られるものの、児童の体育の学習に対する興味・関心は高いため、このマット運動でも技の習得に向けて意欲的に取り組むであろうと考えられる。その中で、児童自身が技の動き方やコツ、自己の課題を明確に意識しながら学習に取り組めるようにすることが必要である。

(2) 教材観

本教材は「学習指導要領第5学年及び第6学年の内容 B 器械運動 ア マット運動」を受けて構想したものである。

マット運動は、マット上で様々な方法で回転する、倒立する、それらの動きを組み合わせるといった多くの技があり、これらの技に挑戦し、その技のできる楽しさや喜びを味わうことのできる運動である。また、それらの技は、体を回転させたり、手や足で体全体を支えたりする巧技的な運動で、日常においてあまり経験しない非日常性を有している。そのため、目標とする技を学習対象として、その動き方を身に付ける学習が必要になる。そして、技を身に付けるには、基本的な動きや予備的な動きを身に付けたり、練習の場を工夫したりすることが大切である。

さらに、マット運動の学習では、技の特性から「できる」「できない」が明確に現れるため、全ての児童が技を身に付ける喜びを味わうことができるように、自己の技能に適した技を選んだり、課題に応じた練習方法を工夫したりすることが大切になる。加えて、技の系統性や発展性を意識しながら学習を進めることも、効果的な技の習得に向けて重要であると考えられる。

これらのことから、マット運動は「できない」技を「できる」ようにすることをねらいに、動き方を身に付けていくための運動学習として大きな価値を有している。

そこで、本教材を通して主に身に付けさせたい資質・能力は以下の通りである。

- | |
|---|
| <ul style="list-style-type: none">・基本的な回転技や倒立技を安定して行うこと 【技能】・運動に進んで取り組み、約束を守り助け合って運動をしたり、場や器械・器具の安全に気を配ったりすること 【態度】・運動の系統性や発展性を意識しながら、自己の課題に応じた練習の場や段階を選ぶこと 【思考・判断】 |
|---|

さらに、本教材を通して身に付けた資質・能力を、以下のように今後生かしていきたい。

- ・「できない」ことを「できる」ようにするために、一つ一つの作業や方法を再確認しながら、進んで反復的に学習に取り組むこと。
- ・助け合いや教え合いといった、他者と協働した学習活動を通して、課題の解決に向けて主体的に学習に取り組むこと。
- ・自他の課題に気付き、解決に向けて試行錯誤を重ねながら、思考を深め、よりよく解決していこうと学習に取り組むこと。

(3) 教材の系統

低学年	中学年
マットを使った運動遊び	マット運動
ねらい：マットに背中や腹などをつけて、いろいろな方向へ転がって遊んだり、手や背中で支持しての逆立ちなどをして遊んだりすること。 ○ゆりかご ○前転がり ○後ろ転がり ○丸太転がり ○背支持倒立 ○かえるの足うち ○壁登り逆立ち ○支持での川跳び	ねらい：基本的な回転技や倒立技に取り組み、自己の能力に適した技ができるようにすること。 ○前転（発展技：大きな前転、開脚前転） ○後転（発展技：開脚後転） ○壁倒立（発展技：補助倒立、頭倒立、ブリッジ） ○腕立て横跳び越し（発展技：側方倒立回転）

高学年	中学校1・2年
マット運動	マット運動
ねらい：基本的な回転技や倒立技に取り組み、自己の能力に適した技が安定してできるようにするとともに、発展技ができるようにすること。また、できる技を繰り返したり、組み合わせたりすること。 ○安定した前転 ○大きな前転（発展技：倒立前転、跳び前転） ○開脚前転 ○安定した後転 ○開脚後転（発展技：伸膝後転） ○安定した壁倒立 ○補助倒立（発展技：倒立） ○頭倒立 ○ブリッジ ○側方倒立回転（発展技：ロンダート）	ねらい：回転系や技巧系の基本的な技を滑らかに行うこと、条件を変えた技、発展技を行うこと、それらを組み合わせること。 ○回転系 ・接点技群（背中をマットに接して回転する） 回転する動き、回転力を高める動き ・ほん転技群（手や足の支えで回転する） 着手の仕方、回転力を高める動き、起き上がる動き ○技巧系 ・平均立ち技群 姿勢を保つ力の入れ方、崩れを復元する動き

(4) 指導方針（◎は校内研修及び本教材のテーマに関わること）

【単元全体に関わること】

- 単元を通して、仲間と共に課題を解決していく協働的な学びの充実を図ることができるように、「励まし合い」「助け合い」「見合い」「話し合い」「教え合い」の5つの「合い」を合い言葉に、学習を進めていく。
- 単元を通して、マット運動に必要な運動感覚や筋力を身に付けることができるよう、準備運動の際に継続して感覚づくりの運動を取り入れる。
- ◎各技の学習については、技の系統性や発展性を意識して学習することができるよう、技ごとに3グループに分け（前方に回転する技を前転グループ、後方に回転する技を後転グループ、そして倒立を中心とした倒立グループ）、各グループを順次2時間ずつ学習する。各グループの学習では、第5学年で指導することが望ましいと思われる技（開脚前転、開脚後転、側方倒立回転）を中心に学習を進めていく。
- ◎児童が学びを自覚し、次の学びへの見通しをもつことができるように、「めあて」の答えを整理する「ま

とめ」の場面を明確にするとともに、振り返り及び次の学びへのつながりとなる場面を設定する。

◎単元の「追求する」過程では、次の学びである「深める」過程で自己の能力に応じた技の練習を効果的に
行うことができるよう、各技グループで中心的に学習した技のコツが、同グループ内の他の技にも共通し
たりつながったりする事を確認する。

○単元の「まとめ」の過程では、児童一人一人が学習の成果を実感したり、児童同士で学習の成果を認め合
ったりすることができるよう、できるようになった技の発表会を設定する。

【ICTの活用】

◎自己の動きを確認したり、課題を見つけ出したりする活動が十分にできるよう、一班（4～5人）で1台
のパソコン（ウェブカメラ付き）を使用できるようにする。

○パソコンの操作にかかる時間を短縮させて、子どもたちが運動時間を確保できるように、自動で「遅れ再
生」ができるソフトや、簡単に録画・再生・スロー再生等ができるソフトを使用する。

【班編成】

○班編成は、各班で児童それぞれの課題を見つけたり話し合ったりする活動が活発に行えるよう、マット運
動の得手不得手や、リーダー性や関心・意欲など日頃の学習への取り組みの様子を考慮する。

【学習カード等】

◎各技のコツや自己の課題を見付けたり確認したりする際には、その後の練習でそれらを明確に意識するこ
とができるよう、技の分解図を示した学習カードにコツや課題を書き込むようにする。

○「まとめ」の場面では、技のコツを学級全体で共有し、その後の学習に生かすことができるように、拡大
した分解図に技のコツを書きこむ際には、短い言葉で合い言葉化するようにする。

4 単元の目標

約束を守り助け合ったり、安全に気を配ったりしながら運動に進んで取り組み、運動の系統性や発展性を
意識しながら、自己の課題に応じた練習の場や段階を選ぶことを通して、基本的な回転技や倒立技を安定し
てできるようにする。

5 指導と評価の計画 別紙

6 本時の展開（4／8）

(1) **ねらい** 勢いよく回転するための開脚後転のコツを見付けることを通して、後転グループの技の系統性
や発展性が分かり、次につながる技の見通しをもつ。

(2) **準備** マット、技の分解図、ホワイトボード、パソコン、ウェブカメラ、大型モニター、スクリーン、
プロジェクター

(3) 展開

学習活動 「予想する児童の意識」	時間	支援及び指導上の留意点・評価 (◇は評価、◎は「努力を要する」状況の児童への支援)
1 準備運動及び感覚づくりの運動を行う。	5分	○ケガの防止につながるように、体の各部位（特に、首と手首） のストレッチを十分に行う。 ○マット運動に必要な運動感覚や筋力を身に付けることができる ように、感覚づくりの運動を行う。
2 本時のめあてをつかむ。【めあての設定】 勢いよく回転するための開脚後転のコツは何だろう。	5分	○学習していく開脚後転のコツが、何のためのコツなのか、なぜ ○○がコツなのかを意識することができるように、単元を貫く めあてと関連させためあてを提示する。
「勢いよく回転するためのコツは何だろう」		○児童が勢いのある開脚後転を意識することができるように、手

<p>「前転グループでは、遠くに手を着いたり、ひざを伸ばしたりしたな」</p>		<p>本となる開脚後転を演示する。</p> <p>○開脚後転の動きをじっくりと確認することができるように、手本となる動きのスロー動画を見させる。その際、児童がよい動きと課題の残る動き（おしりを遠くに着くことができていない、足を勢いよく振り上げることができていないなど）の違いを意識することができるように、開脚後転の完成動画と共に、課題の残る動きの動画も紹介し、両方を見比べられるようにする。</p>
<p>3 開脚後転の完成動画と自己の動画を見比べながら運動を行い、開脚後転のコツ及び自己の課題を見付ける。</p> <p>【個別・集団での追求・検討】</p> <p>○学習の流れ</p> <p>技の完成動画と、課題の残る動画とを見比べる</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分が意識して練習したい点を決める（この後にパソコンで見る自分の動きで、確認したい点、見る視点をもつ） <p style="text-align: center;">↓</p> <ul style="list-style-type: none"> ・試しに開脚後転を行う <p style="text-align: center;">↓</p> <ul style="list-style-type: none"> ・パソコンで動きを撮影する（4人連続で） <p style="text-align: center;">↓</p> <ul style="list-style-type: none"> ・班の全員で映像を見て、気付いたことを話し合う <p>「私は①の場面を意識したけど、どう？」</p> <p>「おしりを遠くに着くことができているね」</p> <p>「②の場面で、足を伸ばせるといいんじゃないかな？」</p> <p>「開脚後転のコツは何だろう」</p> <p>「自分の動きはどうだろう」</p> <p>「お手本の動きに近づけるにはどうしたらよいだろう」</p> <p>「自分は何を課題にしたらよいだろう」</p> <p>「お手本と自分の動きは○○がちがうな」</p> <p>「○○を改善したら上手にできそうだ」</p>	<p>1 3 分</p>	<p>○スロー動画を見た後、この後の学習で意識して取り組みたい点を明確にもつことができるように、技の分解図を示した学習カードの3つの場面の中から、特に意識したい場面を決めさせる。</p> <p>○この場面では、児童同士で動きの様子を伝え合ったり、補助し合ったりすることができるように、4人一組の班での学習形態を基本とする。</p> <p>○運動量を確保することができるよう、一班で2つのマットを使用する。そのうち一つのマットは主に自己の動きを撮影する場とし、もう一つのマットは動きを確認した後に練習する場とする。</p> <p>○開脚後転の完成動画は、児童がその動きをいつでも確認することができるように、1単位時間を通して流し続けておく。</p> <p>○児童がパソコンで自己の動きを見る際、見る視点を意識することができるように、動画を見た後に試しの運動を行う場面を設定する。</p> <p>○パソコンでの撮影については、勢いよく回転するためのコツがつかめたり、自己の課題を明確にしたりすることができ、撮影する必要がなくなれば、パソコンを使わずに、児童同士でアドバイスを出し合いながら繰り返し練習するよう促す。</p> <p>*撮影は、基本的には初めの一度のみとし、子どもたちが運動時間を確保する事ができるようにする。</p> <p>○動画で自己の動きを確認する際には、児童同士の話し合いがスムーズにいくように、学習カードを持ち寄り、互いの意識したい点を確認し合ったうえで、気付いた点を話し合う。その際、見付けたコツや自己の課題を、学習カードに書き込みながら話し合いを進めていくこととする。</p> <p>◎全員が自己の課題を設定することができるように、課題がなかなか定まらない児童へは、本人の映像をもとに教師が助言をしたり、後の全体でのコツの共有場面から課題を選択したりするように促す。</p> <p>○開脚後転を上手に行うことができている児童へは、より発展的な学習に取り組むことができるように、伸膝後転へつなげるためにさらに上達させたい事を明確にしたり、他の児童へアドバイスしたりするよう促す。</p>
<p>4 開脚後転のコツについて、学級全体で共有する。【まとめ】</p>	<p>7 分</p>	<p>○技のコツや自己の課題の記入については、児童がそれを意識しやすく、また、互いにアドバイスしやすくできるように、「遠く</p>

<p>『遠くにおしり!』で、勢いがつくんだな 『後ろにキック!』で、回転しやすくなるんだな 『両手でぐっと!』で、起き上がれるんだな 「自分は〇〇を意識して練習しよう」 「開脚後転のコツを、後転や伸膝後転にも生かしてみよう」</p>		<p>におしり!」「後ろにキック!」といった合い言葉化する。 ○この後の学習において、技の系統性や発展性を意識しながら、後転グループの技の試しの運動を行うことができるように、開脚後転のコツが他の後転グループの技にも共通する事やつながる事を確認する。 「開脚後転のコツを見つけたけど、後転ではどうだろう?」 「開脚後転のコツが、伸膝後転につながらないかな?」</p>
<p>5 開脚後転で見つけたコツを振り返るために、改めてそのコツを意識しながら、開脚後転を行う。 その後、開脚後転で見つけたコツを生かして、後転と伸膝後転の試しの運動を行う。</p> <p>【振り返り及び次の学びへのつながり】 「開脚後転をマスターしよう」 「後転をもう一度見直してみよう」 「伸膝後転に挑戦してみよう」 「どんな練習をしたらよいだろう」</p>	<p>10分</p>	<p>○後転グループの技の系統性や発展性を実感することができるように、開脚後転で見つけたコツを生かして、後転の動きを確認したり、発展技の伸膝後転に挑戦したりする時間を設ける。その際、コツを確認しながら教師が技の演示をし、その後に児童が技を行うようにする。 ○技を行う際には、児童同士で互いの課題を意識し合いながら学習に取り組むことができるように、班の友達に「おしりの位置を見て!」「脚が伸びているかを見て!」など、意識したい課題を伝えあったり、その点についてアドバイスし合ったりするように促す。 ○この場面では、児童が自己の動きを即座に確認する事ができるように、「遅れ再生」された動画を大型モニターに映し出すことができる場を用意する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>◇勢いよく回転するための開脚後転のコツ及び後転グループの技の系統性や発展性が分かる (観察・学習カード) 【思考・判断】</p> </div> <p>◎開脚後転で、回転後に立ち上がることが困難な児童へは、簡易化された場として、細いマットを重ねた場や、マットの角で開脚後転を行う練習方法等を紹介する。</p>
<p>6 本時の学習を振り返り、次時の学習への見通しをもつ。 「開脚後転のコツが、後転や伸膝後転に使えるな」 「次の授業ではあの技にじっくりと取り組んでみよう」</p>	<p>5分</p>	<p>○本時の学習の成果を実感することができるように、「今日の分かった・できた」の発表を促したり、児童の頑張りや変容を伝えたりする。 ○次時の学習への見通しをもてるよう、次時は自己の能力に合った後転グループの技について、練習の場や方法を工夫しながら技能を高めることが学習の中心になる事を伝える。</p>

5 指導と評価の計画

体育科 5年 単元名 マット運動(全8時間予定:本時は4時間目)

単元の目標	約束を守り助け合ったり、安全に気を配ったりしながら運動に進んで取り組み、運動の系統性や発展性を意識しながら、自己の課題に応じた練習の場や段階を選ぶことを通して、基本的な回転技や倒立技を安定してできるようにする。		
	運動への関心・意欲・態度	運動についての思考・判断	運動の技能
単元の評価規準	①技を高める楽しさや喜びに触れることができるよう、器械運動に進んで取り組もうとしている。 ②約束を守り、友達と助け合って技の練習をしようとしている。 ③器械・器具の準備や片付けの役割を果たそうとしたり、場の安全を保持したりしようとしている。	①勢いよく技を行うためのコツ及び技の系統性や発展性が分かる。 ②自己の課題に合った練習の場や方法、技を選んでいる。	①基本的な前転グループの技が安定してできる。 ②基本的な後転グループの技が安定してできる。 ③基本的な倒立グループの技が安定してできる。

時 過程	ねらい	主な学習活動	支援・指導の留意点	評価の観点			評価項目(評価方法)	「努力を要する」と判断される児童への支援
				関	思	技		
1 つかむ	学習の進め方を知り、準備や片付けの仕方を確認するとともに、学習の見通しをもつ。 めあて:学習の進め方を知り、学習の見通しをもつ 単元のめあて:勢いよく技を行うコツは何だろう	・オリエンテーション ・共通メニュー(用具の準備、準備運動を兼ねた感覚づくり、今日の学習内容の確認) ・今できる技の確認や試しの運動 ・学習の振り返り及び次時への見通しをもつ	○単元の導入にあたり、児童の興味・関心・意欲を引き出すことができるよう、児童が思わず体を動かしたくなるような場を工夫し、回転したり逆さになったり倒れ込んだりする感覚を十分に体験させる。 ○単元を通して行う感覚づくりの運動では、楽しみながら体を動かす事ができるよう、音楽に合わせて動いたり、ゲーム性を持たせたりする。 ○ICT機器の扱いに慣れるよう、全員が機器の操作をし、自己の動きを見られるようにする。	○			○器械・器具の準備や片付けの役割を果たそうとしたり、場の安全を保持したりしようとしている。(観察)	苦しい様子や恐怖心等が見られる児童へは、教師が動きの補助をしたり、簡易化された場を設置したりする。
2 ・ 4 (本時) ・ 6 追求する	勢いよく回転するための開脚前転のコツを見付けることを通して、前転グループの技の系統性や発展性が分かり、次につながる技の見通しをもつ。 めあて:勢いよく回転するための開脚前転のコツはなんだろう	・共通メニュー ・開脚前転のコツ及び自己の課題を見付ける ・開脚前転のコツについて全体で共有する ・開脚前転で見付けたコツを生かして、前転グループの試しの運動を行う。 ・学習の振り返り及び次時の学習への見通しをもつ	○学習していくコツが、何のためのコツなのか、なぜ○○がコツなのかを意識することができるように、単元を貫くめあてと関連させためあてを提示する。 ○課題追求の場面では、運動時間をしっかりと確保することができるよう、ICT機器を使用しながらも、まずは体を動かすことを大切にしよう伝える。 ○技の分解図を示した学習カードに分かったことを記入する際には、児童がそれを意識しやすく、また、互いにアドバイスしやすくできるよう、短い言葉で合い言葉化するようにする。 ○児童が学びを自覚し、次の学びへの見通しをもつことができるように、「めあて」の答えを整理する「まとめ」の場面を明確にするとともに、振り返り及び次の学びへのつながりとなる場面を設定する。 ○技の系統性や発展性を意識しながら学習に取り組むことができるよう、中心的に学習した技のコツが同グループの他の技のコツにも共通する事やつながる事を確認する。	○(第2時) ○(第4時・第6時)		【第2時】 ○約束を守り、友達と助け合って技の練習をしようとしている。(観察) 【第4時】 ○勢いよく技を行うためのコツ及び技の系統性や発展性が分かる。(観察・学習カード) 【第6時】 ○自己の課題に合った練習の場や方法、技を選んでいる。(観察・学習カード)	全員が自己の課題を設定することができるように、課題がなかなか定まらない児童へは、本人の映像をもとに教師が助言をしたり、後の全体でのコツの共有場面から課題を選択したりするように促す。	
3 ・ 5 ・ 7 深める	前転グループのコツ及び自己の課題を意識しながら、自己の課題に応じた技に取り組む、技能を高める。 めあて:開脚前転のコツを生かして、前転グループの技を上達させよう	・共通メニュー ・選択した技での自己の課題を見付ける ・児童それぞれの課題に合わせた練習の場や方法、技を選択し練習する ・学習の振り返り及び次時の学習への見通しをもつ	○前時に学習した各グループのコツを基に、技能を高めることができるよう、自己の能力に合わせた技の練習に取り組ませる。 ○児童同士の教え合いがしやすいように、同じ技に取り組む児童同士で班を組むようにする。 ○児童一人一人が自己の課題を明確にすることができるよう、それぞれの技の完成動画及び児童が陥りやすいと思われる失敗例を提示し、自己の動画と見比べながら学習を進めさせるようにする。 ○各技グループのコツの上達を目指した練習を行うことができるよう、それぞれの課題に応じた場を設定する。 ○児童が身に付けた技に応じて更なる発展技に取り組ませる。その際、各技グループのコツをより意識して取り組むことが、技の習得につながる事を確認する。			【第3時】 ○基本的な前転グループの技が安定してできる。(観察) 【第5時】 ○基本的な後転グループの技が安定してできる。(観察) 【第7時】 ○基本的な倒立グループの技が安定してできる。(観察)	課題解決が進まない児童へは、易しい場や条件のもとの練習を促したり、教師が補助をしたりする。	
8 まとめる	できるようになったり、上手になったりした技の発表会を行うことを通して、学習の成果を認め合う。 めあて:できるようになった技の発表会をし、単元を振り返ろう	・共通メニュー ・前転グループ、後転グループ、倒立グループから、自己の能力に応じた技を一つずつ選び、練習する ・発表会を行う ・マット運動の学習を振り返り、単元のまとめをするとともに、第6学年での学習への展望をもつ	○発表の場は、児童が自己の発表内容に合わせて選択できるように、マットを長くつなげた場や、広い正方形にした場、マットを壁につなげた場(壁倒立等を行いやすいように)など、様々な場を設定する。 ○発表会の際には、技を行う側、見る側共に、今まで学習してきた『○○グループのコツ』を意識するように促す。 ○本単元での学習が他の単元や他の教科の学習にもつながるように、課題を見付けながら主体的に学習することや、友達と教え合いながら学習することの良さを確認する。	○		○技を高める楽しさや喜びに触れることができるよう、器械運動に進んで取り組もうとしている。(観察)	積極的に取り組むことができない児童へは、単元を通して少しでも上達したことを教師が伝えたり、児童同士で伝え合ったりする事で、充実感を感じられるようにする。	

「マット運動」学習カード

5年 組 番 名前

○技調べ（今できる技には鉛筆で丸をつけましょう。新しくできるようになった技には赤鉛筆で丸をつけましょう。）

前転グループ	チェック	後転グループ	チェック	倒立グループなど	チェック	倒立グループなど	チェック
前転		後転		かべ倒立		うで立て横とびこし	
大きな前転		開きやく後転		ほじょ倒立		そく方倒立回転	
とび前転		しんしつ後転		頭倒立		ロンダート	
開きやく前転				ブリッジ			
しんしつ前転							

○ふり返り

時 月日	今日の「分かった・できた・がんばった」	時 月日	今日の「分かった・できた・がんばった」
1 /		5 /	
2 /		6 /	
3 /		7 /	
4 /		8 /	

マット運動 5つの『合い』

その一 『はげまし合い』

「もう少しでできそう」「上手になってきたよ」

その二 『助け合い』

「手伝ってあげる」「いっしょにやろう」

その三 『見合い』

「〇〇を見ていてね」「どんな動きになってる？」

その四 『話し合い』

「気をつけることは何だろう」「どうすればいい？」

その五 『教え合い』

「〇〇を△△するといいよ」「コツは〇〇だね」

【授業づくり 8つのポイント】

安中市立原市小学校 (H28.7月版)

1 1単位時間(単元)の授業構想

- 授業で大切なのは、「めあて」をもとに主体的に学び、「まとめ」、「ふり返り」こと。この流れをしっかりと押さえていきましょう。
- 児童がこれからの学習に関する内容のうち、何を知っているのか(関連する既習事項は何か)、把握しておきましょう！これを使うことが活用力になります。

教材研究

2 問題の吟味

- 児童が興味関心を持って解決したくなったり、必要性を感じたりするような問題を提示しましょう。
- 教科書の問題に縛られる必要はありません。「めあて」「まとめ」に沿った問題を考えましょう。

3 めあての設定

- 課題に興味を持たせるため、先に問題を提示して児童とのやりとりをしながら、「めあて」を作って板書しましょう。
- 「めあて」と「問題」は違います。時には、始めから答がわかっている問題でもいいですね。

めあてと課題

4 解決の見通し

(考え方を教える①)

- 追究に入る前に、まずは「考え方」を教師も含む教室のみんなで共有し、見通しを持たせましょう。
- 今までの学習(既習事項)から、どんなことが使えそうか、どうに使えそうか、考えさせましょう。それが「活用力」につながります。

5 個別に追究

- 個での課題追究を基本として、時間を決めて取り組ませましょう。
- TTや少人数等の支援も有効です。
- 自分の考えを書かせましょう。
- 個の考えは、「目指す姿」でなくてかまいません。

追究・検討

6 集団で追究(対話的な学び)

(考え方を教える②)

- 友達の考えに触れ、自分の考えを深めたり、広げたりさせましょう。
- 教師はファシリテーター的な立場で、単に「他には？」と問うのではなく、「自分と違うところは？」「もっと簡単にするには？」などと発問し、児童の意見をつないでいながら、考えを深めたり広げたりしていきましょう。私たちの腕の見せ所です！

7 まとめ

- 一方的に提示して教えるのではなく、児童と一緒に作り上げましょう。
- 「まとめ」は「めあて」の答です！ここでもう一度「めあて」と「まとめ」を確認しましょう。

まとめ

8 ふり返り

- 「まとめ」と「ふり返り」は違います。「ふり返り」を通して、児童が今日の学びを自覚できるようにしましょう。
- 主体的に取り組むほど、学びを自覚できます。
- 算数では、習熟問題に取り組むのも「ふり返り」です。

ふり返り

授業の流れを意識づけるため、「授業場面のラベル」も活用していきましょう！

気づいたこと

前に学んだこと

○勢いよく回転するための開脚後転の『コツ』は何だろう？

5年 組 番 名前 _____

*見つけた開脚後転のコツを図に書きこみましょう。また、自分が特に気をつけたいコツを、赤でかこみましょう。

はじめ

なか

おわり

